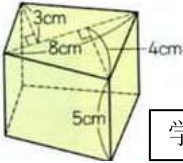
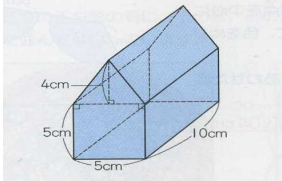
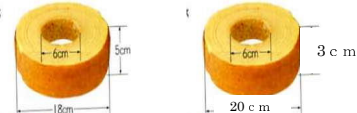


言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (廿日市市立津田小学校)

- ① 教科等 算数科
- ② 学年 第6学年
- ③ 単元名 立体の体積
- ④ 本時の目標 複合した立体図形の体積の求め方を考え、説明することができる。
- ⑤ 学習の流れ (6時間目/全6時間)

| 学習活動 | 指導上の留意事項 | 評価規準〔観点〕 (評価方法) |
|---|--|--|
| <p>1 考える足場の問題を解き、学習課題を確認する。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> 学習したことを使って、立体の体積の求め方を考えよう </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した底面の形に着目させ底面積は2つの三角形の面積の和であることをとらえさせる。 ・柱体の体積＝底面積×高さで求められることを確認する。 | |
| <p>2 複合した立体図形の体積の求め方を考え、話し合う。</p>  <p>C 三角形と正方形を合わせた面を底面として考えました。 初めに、三角形と正方形の面積を求め、底面積を求めます。 次に、底面積に高さをかけて体積を求めます。 $(10+25) \times 10 = 350$ 体積は 350 cm^3 になります。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・どこの面が底面になるか、自由に発言させながら考えさせる。 ・足場問題を手掛かりに自力解決をさせ、自分の考えをもたせる。 ・足場問題の板書を参考にしながら、順序を表す言葉や算数用語、公式を使うように声かけする。 ・ペアトークを行い、友だちの説明の良さや工夫に気付かせ、自分の考え方にそのよさを取り入れるよう促す。 ・2つの立体の体積を求めそれを合わせた考え方が出た場合は、その考え方も認めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・色々な見方で立体をとらえ、それに応じた考え方で立体の体積の求め方を考え説明することができる。〔数学的な考え方〕 (ノート, 行動観察, 発言) |
| <p>3 体積についてまとめる。</p> <p>4 発展問題を解く 2つのバームクーヘンの体積はどちらが大きいでしょうか。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・複合した立体図形でも「底面積×高さ」で、体積が求められることをまとめる。 ・底面積を求められるように、円の面積の公式を掲示しておく。 ・「底面積×高さ」の考え方をを使うと、早く簡単に求められることに気付かせる。 | |

言語活動の充実

設定した言語活動を通して育てたい力

- 体積の求積方法を考え、算数用語（面積の公式や「底面積×高さ」という体積の公式）を使って筋道を立てて説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 面積の公式など常掲し、すぐに使えるようにしておく。
- ペアトークを取り入れ、互いの考えを深めさせたり、説明に自信をもたせたりする。